

はじめよう！ 経営デジタル化



芳賀 保則
(はが やすのり)

税理士・中小企業診断士・ITコーディネータ
代表を務める「税理士法人ハガックス」は
東京に2拠点(渋谷・秋葉原)
認定経営革新等支援機関・DX認定事業者

生成 AI 編

1. まずは「社長のひと声」から変えてみませんか？

「社員が忙しく、新しいことに手が回らない」——そんな悩みを持つ社長にとって、生成AIは頼れる存在です。

たとえば「売上アップのアクションプランを考える」「商品案内文を作る」など、経営や業務の相談相手として活用できます。

2. 用語の説明

- 生成AI：文章や画像などを“新しく作る”AI
- ChatGPT (チャットジーピーティー)：代表的な生成AI。スマホでも使えます
- プロンプト：AIへの“指示文”。たとえば「あいさつ文を考えて」と入力します
- ハルシネーション：生成AIがもっともらしく見えても、間違った答えを出すこと

3. まずはやってみる。それだけで変わる

生成AIは、無料でもすぐに使い始めることができます。ここでは「ChatGPT」の始め方をご紹介します。

【手順1】スマホやパソコンで「ChatGPT」と検索し、公式サイトを開きます。

【手順2】「サインアップ(登録)」をクリックし、メールアドレスとパスワードを入力。スマホに届いた確認コードを入力すれば完了です。

【手順3】ログインすると、すぐにAIチャット画面が表示されます。プロンプト(指示文)として日本語でそのまま入力できます。例えば、「商品の案内文を作って」「売上アップするにはどうしたらいい？」など、会話のように試してみてください。

【手順4】AIから返ってきた答えには、会話のキャッチボールのように追加で要望を伝えてみましょう。

ただし、生成AIはときにもっともらしい誤情報(=ハルシネーション)を出すことがあります。内容に重要性がある場合は、必ず専門家などに確認するようにしましょう。

ちょっとした会話の感覚で、新しい発見がきっとあるはずですよ。

4. 社内で安心して活用するには

個人での利用は広がっていますが、会社で使いこなすには少し工夫が必要です。

- 社員にも使わせるには？：実例を共有して、まず試しても

らうことが第一歩です。

- 社内ルールを整える：「個人情報・機密情報は入力しない」「出力内容は必ず確認する」「どの生成AIを使う」など、基本方針を明文化して周知します。
- AIが学習しないように設定が必要：ChatGPTでは、入力内容をAIが学習しない設定が可能です。これにより、情報漏洩のリスクを大幅に軽減できます。
- 会社で使う環境を整備する：従業員による不適切な利用を防ぐためにも、会社で管理できる有料プラン(例：ChatGPT Team)の導入をおすすめします。有料版ではセキュリティや管理機能が強化され、社内での安心な活用が進めやすくなります。

5. 写真1枚でも、改善が始められる

昨今の生成AIは、画像や動画も瞬時に解析できるため、現場の写真1枚からでも改善のヒントを導き出せます。例えば、工場の作業エリアをスマートフォンで撮影し、「改善点はありますか？」とAIに問いかけるだけで、「黄色線で通路が示されていますが、一部に物品(箱や扇風機など)が置かれており、避難経路が塞がれるリスクがあります」「床置き扇風機の電源コードが、つまずきの原因になる恐れがあります」といった具体的な指摘が瞬時に返ってきます。こうした活用は、5Sや安全衛生活動の一環として非常に実用的です。スマートフォンと生成AIだけで、手軽かつ効果的な職場改善の第一歩が始められます。

6. まずは「社長が1分」から

生成AIは、業務の効率化や発想のヒントを与えてくれる頼れる道具です。完璧に理解しなくても、まずは「1日1問」気軽に試してみるだけで十分。実際、「意外と簡単だった」「思ったより使える」といった声がよく聞かれます。

うまく使いこなせれば、社長の時間もより創造的で価値あるものになります。最近では、音声入力でもAIに日頃のモヤモヤを話してスッキリしている若手社員もいるとか。生成AIも、まるで人のように『わかりますよ』と応えてくれるかもしれませんね(笑)。

難しく考えすぎず、まずは一歩踏み出すこと。それが経営デジタル化の第一歩です。

その一歩が、会社の未来を大きく変えるかもしれません。